

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
夢をもち かしく やさしく 元気な子をそだてる ◎目指す子ども像 ・夢や目標をもち、最後まで取り組む子 ・たがいに認め合い、励まし合う子 ・進んで学習し、確かな学力を身につける子 ◎3つの「つ」を実行できる子 (あいさつ・たいせつ・あとしまつ)	(1) 確かな学力の育成を図り、学ぶ喜びを体験させる。 (2) 自分や他人、ものを大切にし、思いやりをもつことのできる様々な場面を体験させる。 (3) 夢や目標をもたせ、達成に向け根気強く取り組ませ、達成の喜びを体験させる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 ◎国語 ○国語A、国語B、算数A、算数Bともに、県平均と比べると正答率が低い。特にB問題の正答率が低い。 ○国語では、「言語についての知識・理解・技能」については県平均とほぼ同レベルだが、「読む能力」「書く能力」が特に低い。 国語A「ことわざの意味(三度目の正直)」: 本校90%(全国90%) 国語B「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」: 本校25%(全国33%) ○算数の領域別では、「数と計算」は県平均とほぼ同程度だが、「図形」が特に低い。観点別では、「数学的な考え方」が特に低い。 算数A「8と12の最小公倍数」: 本校85%(全国86.2%) 「正五角形の性質」: 本校55%(全国75.5%) 算数B「考えを解釈し、数量関係を図に表す」: 本校55%(全国81.8%) ○国語・数学では3学年(3、4、5年)とも県平均を下回っている。 県 ○3年生は、国語では、作文を書く正答率が目標値を21.7%上まっていた。領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と観点「言語についての知識・理解・技能」の正答率が低い。「漢字を書く」: 本校51.4%(全国73.2%) 算数では、「円と球・三角形」「図形」の問題が目標値に達していた。領域「数と計算」、観点「数量や図形についての技能」の正答率が低い。「かけ算」: 本校51.9%(全国69.0%) ○4年生は、国語では、作文を書く正答率が目標値を3.1%上まっていた。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、観点「言語についての知識・理解・技能」の領域の正答率が低い。「漢字を書く」: 本校51.4%(全国73.2%) 算数では、「円と球・三角形」「図形」の問題が目標値に達していた。領域「数と計算」、観点「数量や図形についての技能」の正答率が低い。「かけ算」: 本校51.9%(全国69.0%) ○5年生は、国語は全国平均とほぼ同レベル。領域「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と観点「言語についての知識・理解・技能」の正答率が低い。「漢字を書く」: 本校62.5%(全国74.2%) 算数では、領域「数と計算」と観点「数量や図形についての技能」の正答率が低い。「計算のふく習」と「小数」: 本校67.9%(全国89.0%)	【学習状況調査の結果】 ○将来の夢をほぼ全員が持っている。 ○朝食、早起きではよい結果が出ているが、早寝の習慣がついていない児童もいる。 ○テレビ等を視聴したり、テレビゲームをしたりする時間が、1時間未満の児童が県平均より多い。テレビやゲームをしない時間を有効に使っている。 ○家庭で自分で計画を立てて学習をする児童が少ない。 ○一日に一時間以上読書をする児童が県平均より多い。 ○自分が住んでいる地域の行事に参加する児童が多い。 「家庭学習の時間が一時間以上」: 本校75%(全国64.4%) 「将来の夢や目標を持っている」: 本校90%(全国85.9%) 「地域の行事に参加している」: 本校80%(全国62.6%) 県 ○家庭での学習習慣が身につけているので、計画的に学習を進める児童が多い。 ○全員が学校のことが好きであり、将来の夢を持っている児童が多い。 ○家の人と決めた約束やきまりを守っている児童が多い。 ○あいさつについてはほとんどの児童ができています。

成果	課題
○よい生活習慣(朝食など)や学習規律の指導などを通して、落ち着いた学習環境を作り出している。 ○キャリア教育を継続して行っていることで、将来の夢を持つことができていると考えられる。 ○「どんどんチャレンジ」「放課後学習」などを継続することで、基礎的な力をつけることができた。 ○協同学習に取り組んだことで話し合い活動が増え、友だちと協力して最後まで学習に取り組もうとする力がついた。 ○ノーマディアの取り組みを家庭と連携して行うことができた。その結果、テレビ等の視聴時間についてのルールを決めている家庭が増えた。 ○地域ボランティアを活用しての授業が多い。そのため、児童が地域の文化や行事に関心をもつことにつながっている。	○国語、算数ともに活用型の問題を苦手としている。また、国語や算数が好きと答える児童が少ない。 ○よい生活習慣が身につけていない児童や正答率が特に低い児童への個別指導をする必要がある。 ○自分の考えや説明を文章に書き表すことが苦手な児童が多い。 ○話し合い活動を通して、交流した意見をまとめたり、深めたりする力が弱い。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語・算数の県平均正答率以下の取組	学年末	県平均程度	定期的な小テスト 補充学習の継続:「どんどんチャレンジ」や放課後学習 問題データベースの活用 読解力問題の活用 個別学習 家庭学習の工夫	宿題や補充学習の教材として問題データベースを活用することにより様々な問題に取り組ませることができた。基礎的な問題はできるが文章を読み取りたり発展的な問題を苦手とする児童	B	基礎的な問題だけでなく、発展的な問題に取り組ませるために、問題データベースを積極的に活用した。家庭と連携して「チャレンジカード」に取り組み、家庭学習の定着に努めた。	B	放課後学習・どんどんチャレンジ・朝学習に問題データベースや学力調査の問題を活用していくなど、教材検討を行う。家庭と連携し、家庭学習・基本的な生活習慣の定着をさらに図る。
児童の学習への意欲	学年末	児童アンケートで「授業は楽しい」「勉強を頑張っている」が85点以上、「発表をしている」が80点以上になる。	関心・意欲を高め、自ら探究していきなくなるような課題の工夫。 自分の考えを伝え合う授業の実施。(数学的な考え方) 管理職や特別支援加配が授業を参観し、チェック(発表回数、発表内容、学び合い)をする。 児童アンケートを学期ごとに実施し、学習の理解や学習意欲を把握する。	校内研修で一人1回の公開授業を行い、外部講師の指導を受け、協同学習について職員間での共通理解を深めた。また、高学年の算数では、児童の実態にそって担任と加配教員で学年を二つにわけてよりきめ細かい指導を行った。正答率の低い児童が学習に主体的に取り組むようになり、単元テストでも正答率の向上が見られる。	B	公開授業研究会を実施した。外部講師による師範授業や職員間の授業を互いに参観し、授業力向上に努めた。算数科の少人数指導を継続した。正答率の低い児童の学力向上と学習意欲の向上につながり効果的だった。	B	校内研修を充実させ、職員がお互いの授業を参観し合うことで、協同学習による学び合う授業についての共通理解をさらに図る。また、より効果的な少人数指導や補充学習(教材・教具の工夫、指導体制、時間)の方法や読書習慣(学校司書との連携)の定着を図る。
※達成度								

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○学習意欲の向上と理解の定着を図るために、学び合いを積極的に取り入れる。(協同学習の全学級での定着) ○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善に取り組む。	○ノーマディアの取り組みを家庭を巻き込んで行う。 ○学習ボランティアへの積極的な参加を呼び掛ける。